

外国人留学生を支え続ける日本語シニア教師の思い

■ 日本語教育30年の岡山外語学院とは

日本語教育30年の歴史と、3800名の卒業生を誇る岡山外語学院は、中四国地方最大級の日本語学校である。当学院は、アジアを中心とした世界各国からの外国人留学生を対象に、日本語教育はもろろんのこと、住まいの確保や交通ルール・ゴミ出しの指導、更にはアルバイト先や就職先の発掘、進学・就職指導など、留学生一人一人が日本の文化や習慣にいち早く馴染み、日本のことを好きになってもらうため、教職員が同じベクトルで指導・サポートにあたっている。

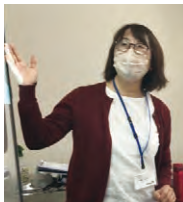
不安と期待を交錯させて来日する留学生の「人生の土台作り」をサポートすべく、教職員と留学生が同じ立場で「ともに生きる、ともに学ぶ」その教育活動は、岡山大学の留学生にも横展開されていくなど、「多文化共生社会の礎」として大きな存在価値となっている。

■ 新型コロナ禍に立ち向かった日本語教師たち

そんな岡山外語学院を突然襲ったのが新型コロナである。2020年春、新規留学生は日本に入国できず、海外で待機することとなり、全国の日本語学校は経営危機に直面する事態となった。しかし岡

山外語学院では、教職員のチャレンジ精神で、4月には「オンライン入学式」を開催、7月にはその当時では想像もできなかった海外の留学生に対する「オンライン授業」を導入した。

そんな日本語教師の一人が榊原美智子先生である。榊原先生は、長年岡山県下の中学校で家庭科の教員として、授業だけでなく、部活動や保護者対応にも常に全力であったり、今でも教え子との交流を大切にされている熱い先生である。先生は、今から7年前の50代後半で、恩師との再会をきっかけに日本語教師の門を叩いた。ここ岡山外語学院の日本語教師養成講座に入り、ネイティブがゆえに教えることが難しい日本語教育の魅力に取りつかれたそうである。



榊原美智子先生

■ 日本に来る外国人留学生への熱い思い

榊原先生は「勉強が難しく嫌になっっていく留学生に、いかに分かりやすく教えるのかは、授業についていけなくなる中学生と同じです。そのために、自分で工夫を重ねたオリジナル教材のブラッシュアップをずっと続けています」と明るい笑顔で語ってくれました。「私は留学生をリスベ

クトしています。こんな難しい日本語を学び、慣れない日本の文化や習慣に馴染もうと努力する留学生には頭が下がります。卒業後の就職先で、仕事をしながら、日本語の勉強の機会を設けてくれる素晴らしい会社も増えてきました。自分もシニア教師として、これからも長く、様々な国の若者の人生の土台を築くお手伝いができれば」と目を輝かせて続けてくれました。




授業中のコマ

池口武志(いけぐち・たけし)

一般社団法人定年後研究所 理事長

1963年生まれ。1986年日本生命保険相互会社入社。現在、株式会社星和ビジネスリンク取締役常務執行役員、キャリアコンサルタント(国家資格)としても活動中。著書として『定年NEXT』『人生の頂点は定年後』がある。



一般社団法人定年後研究所

人生100年時代の中で、中高年社員のセカンドキャリアの充実に向けた調査活動を展開中。定年前後の自走人生にチャレンジする会社員と、それをサポートする企業を応援。当記事へのご意見ご感想を、ポータルサイト <https://www.teinengo-lab.or.jp>「お問い合わせ」にお寄せください。

当ページのバックナンバーは、上記サイトをご覧ください。